

ダイズでハスモンヨトウ等のチョウ目幼虫の発生が多くなっています。 発生が多い圃場では防除を実施して下さい！

[現在の状況]

8 月下旬現在，ダイズ圃場におけるハスモンヨトウの寄生虫数及び白変葉（若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉）の発生か所数は平年よりやや多く，発生地点率は平年より高い（表 1，表 2）

8 月下旬現在，ハスモンヨトウ以外のチョウ目幼虫の寄生虫数は平年より多く，発生地点率は平年より高い（表 1）。発生種は，オオタバコガ，ツメクサガ，ヨモギエダシヤク等である。（オオタバコガについては，平成 22 年 8 月 26 日発表の病害虫発生予察注意報第 2 号を参照）

気象予報（8 月 20 日発表）によると，向こう 1 か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。

表 1 ダイズ圃場におけるチョウ目幼虫の発生状況(8 月下旬調査)

地域 (調査地点数)		寄生虫数/25株			発生地点率(%)		
		本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
全県 (12)	ハスモンヨトウ	1.7	1.1	2/11	33	16	2/11
	ハスモンヨトウ以外の チョウ目幼虫	9.5	2.6	1/11	75	59	2/11

1) 平年:平成12～21年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間における本年値の順位を示す。

表 2 ダイズ圃場におけるハスモンヨトウによる白変葉の発生状況(8 月下旬調査)

地域 (調査地点数)	白変か所数/a			発生地点率(%)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
全県(12)	0.1	0.0	4/11	33	7	1/11

1) 平年:平成12～21年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間における本年値の順位を示す。

[防除対策]

防除薬剤は，表 3 を参考にする。なお，老齢幼虫になると，薬剤が効きにくくなるため，圃場をよく見回り，若齢幼虫のうちに防除を行う。特に，IGR 剤は，若齢幼虫が主体の場合には有効であるが，老齢幼虫が主体の場合には，遅効性で食害が進むため適さない。

薬剤散布は，葉裏や着莢部にも薬剤がかかるように丁寧に行う。多発生が継続する場合は，追加防除を行う。なお，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

表 3 ダイズのハスモンヨトウに登録のある主な薬剤（平成 22 年 8 月 10 日現在）

系統名	薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前日数- 剤の使用回数	有効成分- 有効成分の総使用回数
有機リン系	エルサン乳剤	1,000	7-2	PAP-2
合成ピレスロイド系	トレボン乳剤	1,000	14-2	イトフェンブ ロックス-2
IGR	アタブロン乳剤	2,000～4,000	14-2	ケルフルアズロン-2
	ノーモルト乳剤	2,000	14-2	テフルベンズロン-2
その他	トルネードフロアブル	2,000	7-2	インドキサカルブ MP-2

農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ，周辺作物への飛散に留意して使用して下さい。